

教授職への年俸制の導入について

7月23日に開催された口腔生命科学系列教員会議で歯学部担当教授職全員に年俸制の導入を決定し、7月25日にプレスリリースされました。現在の年功序列による給与体系から成果実績による給与体系に改めることにより、国内外の優秀な人材の登用がより容易となることから、異分野交流やグローバル化の進展を通じ、超高齢社会において

活躍できる口腔保健医療人材の育成、先駆的イノベーション研究の更なる推進を狙いとしています。また教員人事の硬直化が大きな問題となっており、政府は若手人材の積極的登用の方針を打ち出しており、今後、年俸制の拡大およびシニア教員の若手教員への振替に積極的に取り組むこととなります。

ミッションの再定義について

昨年度より、文部科学省と議論し、策定された「ミッションの再定義」が公表されました。歯学をとりまく現状と社会的要請として、①健康長寿社会実現への貢献、②医療イノベーションの創出、③国際的な医療課題の解決があげられ、振興の観点として、「医療人として必要な資質を備えた人材の育成に加え、国立大学の歯学分野においては、超高齢化やグローバル化に対応した人材の育成や、医療イノベーションの創出により、健康長寿社会の実現に寄与する観点から機能強化を図る」ことがかけられています。

新潟大学歯学部のミッションとして、課題解決能力等を持った歯科医師養成と国内外の人材養成モデルの構築、口腔のQOL向上を目指した基礎・臨床研究、有病・高齢者への対応や歯科再生

医療の実践が定義されました。第3期中期計画・中期目標期間ではこのミッションに再定義に基づいた、戦略的な学部運営、教育改善が必要となります。

ミッションの再定義を含めた国立大学改革についての詳細については文部科学省のホームページ (http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1341970.htm) に掲載されているとともに、保健系 [歯学] に関するポンチ絵は (http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2014/04/28/1341977_01.pdf) で参照できます。医学、工学等の他分野の状況も確認できます。

教授人事について

野村修一名誉教授の退職に伴い、空席となっていた包括歯科補綴学分野担当教授として、7月23日開催の口腔生命科学系列教員会議で大阪大学大

学院歯学研究科小野高裕准教授が選出されました。平成26年10月1日付の発令を予定していません。

部局間交流協定の締結について

歯学部として学生・教員交流によるグローバル人材の育成、共同研究の推進、国際協力・医療貢献活動を念頭におき、外国歯科大学・歯学部と部局間交流協定の締結を推進してきましたが、この度、ミャンマー、ベトナム、米国歯科大学、歯学部と部局間交流協定を締結しました。

平成26年5月22日には、前田歯学部長、宮崎副歯学部長がミャンマー・マンダレー歯科大学を訪問し、部局間交流協定を締結しました。また、両教授による記念講演が行われました。なお、ミャンマーには2つの歯科大学が設置されており、今回の締結により、今後、著しい経済発展が見込まれるミャンマー歯学界との交流が円滑かつ活発に進むと期待されます。

また、前田歯学部長、魚島副歯学部長がベトナムを訪問し、6月13日にはハノイ医科大学歯学部、6月16日にはホーチミン医科薬科大学歯学部と部局間交流協定を締結しました。いずれの大学も学生交流には熱心であり、ベトナムには羽田から直行便も就航しており、SSSV事業を活用した新たな学生交流が期待されます。

7月14日には米国ペンシルベニア大学S. Kim教授が本学歯学部を訪れ、同大学歯学部と部局間交流協定を締結しました。Kim教授によるペンシルバニア大学歯学部の紹介、大峽准教授による発生生物学研究成果の紹介が行われ、共同研究の可能性、学生交流事業について活発な意見交換が行われました。



マンダレー歯科大学との部局間交流協定締結式



マンダレーでの記念講演会



ハノイ医科大学歯学部との部局間交流協定締結式



同締結式での記念品交換



ホーチミン医科薬科大学歯学部との部局間交流協定締結式



同締結式での記念品交換



ペンシルベニア大学との部局間交流協定締結式



ペンシルベニア大学と意見交換

総合研究棟（歯学系：歯学部校舎） 改修工事（第2期）の完了について

改修工事中、教職員、学生諸君には騒音等、ご迷惑をおかけしましたが、大型改修第2期工事（A、B棟）は平成26年5月29日に完成しました。第2期工事では、A棟に臨床系教員研究室、共通スペース、シミュレーション室が整備されるとともに、B棟には臨床実習用学生技工室を含む臨床系実習室が移転・整備されました。なお、夏季休

暇期間中に各種移転作業が行われ、新たな臨床系実習室の供用は10月1日からの予定となっています。

今秋からは改修工事の第3期（基礎系研究室、講義室、PBL室、基礎系実習室、ロッカー室等）が行われることとなっており、今後ともご協力のほどをよろしくお願い致します。

小川祐司准教授がWHOオーラルヘルス部門主任に就任

本学歯学部には本邦唯一のWHO口腔保健協力センターが設置され、WHO（世界保健機構）とともに、口腔保健活動で高い評価を受けています。この度、平成26年4月より予防歯科学分野小川祐司准教授がWHOオーラルヘルス部門の主任として赴任しました。任期は3年の予定。また、7月には高橋姿学長、前田歯学部長、宮崎副歯学部長がWHOを表敬訪問し、WHO中島事務局長補等と面談し、今後の協力関係について意見交換を行いました。



WHOで前田学部長（左）高橋学長（中央）小川准教授（右）と

文部科学省事業「課題解決型高度医療 人材養成プログラム」の採択について

平成26年度から開始される「課題解決型高度医療人材養成プログラム」は、我が国が抱える医療現場の諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成するため、大学自らが体系立てられた特色ある教育プログラム・コースを構築し、全国に普及させ得るべく、これからの時代に応じた医療人材の養成に取り組む事業とし

て、全国公募されていましたが、この度、「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」（申請担当大学：東京医科歯科大学、連携大学：新潟大学、東北大学、東京歯科大学、日本歯科大学）が採択されました。5年間の補助事業が予定されています（http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/1350317.htm）。

トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム採択

本邦では留学生30万人計画をはじめとして、人事交流を中心としたあらゆる分野での国際化が国策として推し進められています。その一環として平成25年10月に文部科学省内に留学促進広報戦略本部が立ち上げられ、留学促進キャンペーンが始まりました。平成26年度には早速（独）日本学生支援機構が窓口となって、「官民協同海外留学支援制度～トビタテ！JAPAN日本代表プログラム～」が開始されました。これは経済界や一般の賛同者から広く資金提供を受けて、文部科学省が上限を1年とする海外留学を支援するプログラムです。平成26年4月に行われた第1回の募集（専門を問わず300名定員）に対して本学歯学部からも応募したところ、江口香里先生（大学院博士課程3年）が見事に採択されました。採択されたコースは「自然科学系、複合・融合系人材コース」です。今後1年間、国の手厚い支援を受けてアメリカに研究留学する予定です。

本学歯学部では、歯学部学生や大学院生を含めて、積極的に海外との交流や交換留学を推進しています。毎年何校かの海外歯学部との交流協定を締結していますし、実際に日本学生支援機構の支援を受けて、多くの学生が海外に短期留学し、海外からも多くの学生を短期で受け入れています。今後は1年程度の留学機会も増やしていくようにするつもりです。今年度は第2回目の日本代表プログラムの募集もあるようです（<https://tobitate.jasso.go.jp/>）。歯学部としてもやる気のある諸君には最大限のサポートをしたいと考えていますので、是非積極的に海外に目を向け、行動を起こして下さい。今後の皆さんの活躍を期待しています。

歯学部長 前田 健康
国際交流担当副学部長 魚島 勝美

平成26年度科学研究費助成事業の採択結果について

日本学術振興会（JSPS）は4月1日付で平成26年度科学研究費助成事業の交付内定をしました。本年度歯学系の採択率（速報値）を以下の表に示します（カッコ内は昨年度実績）。

	新 規		新 規 + 継 続	
	採択件数／応募件数	採択件数／教員数	採択件数／応募件数	採択件数／教員数
院（歯）	51.6 (46.9)%	35.6 (26.4)%	72.5 (75.2)%	87.8 (90.8)%
病院（歯）	63.2 (63.2)%	29.3 (29.3)%	83.7 (82.5)%	87.8 (80.5)%
全 学	31.6 (29.0)%	20.5 (17.2)%	56.8 (57.9)%	58.3 (57.9)%

特任教員、技術職員にかかるもの、スタートアップは除く

総括すると、今年度も昨年同様の採択率を示し、新規と継続分をあわせた結果では、教員採択率（応募件数／教員数）は大学院（歯）所属教員では若干低下し、87.8%となりましたが、病院（歯科系）所属教員では87.8%と過去最高の採択

率となりました。いずれも全学でトップの採択率でした。ただし、採択金額は微増であり、大型研究種目への移行を見据えた共同研究の推進が歯学部の大きな研究面での課題の1つといえます。

山田好秋前教授、野村修一前教授に対する名誉教授称号の授与について

山田好秋前口腔生理学分野教授および野村修一前包括歯科補綴学分野教授に対し、新潟大学教育研究評議会は先生方の長年にわたるご功績に対し、学校教育法に基づき名誉教授の称号を授与す

ることを決定し、平成26年6月26日に名誉教授の称号授与式が執り行われました。発令は平成26年4月1日付け。

平成26年度オープンキャンパスの開催について

8月11日全学主催のオープンキャンパスが開催されました。当日、ときおり強い雨も降る、むし暑い中、県内外から240名の参加者がありました。学部長挨拶のあと、小野学務委員長による全体説明、山崎入試委員長による入試説明、井上教授に

よる模擬講義、卒業生による学部紹介、施設等見学が行われました。なお、予想を上回る参加者数のため、当初2カ所であった会場を急遽3会場とすることとなりました。



オープンキャンパス全体説明会



オープンキャンパスでの模擬実習

新潟高校理数科特別講義の開催について

新潟県立新潟高校は「新潟県の医歯学の大学研究施設の訪問研修を通じ、最先端の医療施設、医療技術に関する知見を広げる。また、医師の講演を聴いたり実習体験したりして、高い動機付けを行うとともに、医療に従事する倫理観の涵養を図る」ことを目的として、8月6日、理数科51名、普通科7名計58名が学生新潟大学歯学部を訪問しました。歯学部長の挨拶の後、「口の健康と微生物学：観て考えて」（寺尾教授）、「摂食嚥下障害とその治療」（井上教授）の模擬講義等が行われた。



新潟高校理数科特別講義